

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100774		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	宮崎県宮崎市大字島之内2752番地		
自己評価作成日	平成27年2月5日	評価結果市町村受理日	平成27年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺は田畑が多くあり、自然の中でゆっくりと生活が出来る環境である。また、少し足を延ばすと商店や駅があり、必要な物品の購入が出来、交通手段も整っている。敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス、在宅介護支援センター等があり、事業所が孤立せず、他事業所から協力を頂ける体制が整っており、職員は安心して働ける環境となっている。事業所内は木材の温かみを感じられる造りとなっており、天井は吹き抜けで、圧迫感を感じる事が無く生活出来る共有スペースを確保している。夜間帯は、セコムセキュリティ体制にて安全確保を行い、セコム火災監視システムを導入する事で、火災の際の応援体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には、法人の施設が併設され、介護支援センターも隣接しており、ホームはその一隅にある。法人との連携も強く、避難訓練や災害訓練等を全体で行っている。ホームの東側には農地が広がり、見晴らしも良く、陽が入るよう天井が高い木造作りの建物となっており、居心地の良い環境となっている。運営推進会議では、報告だけではなく、地域からの意見も多く取り入れられ、支援につなげている。全職員で利用者の要望を聞き取れるよう、夕食では会話をしながら、また、好みや季節の食材を取り入れ一緒に調理するなど、楽しく和やかな雰囲気となるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、誰もが見える場所への掲示を行っている。また、理念の共有を図るために、毎朝、理念を唱和し、その日の業務に入るようにしている。理念の共有や内容について、勉強する機会も設けている。	当初の理念は法人全体のものであったが、管理者、職員で話し合い、ホームのみの理念に作り変え、毎朝唱和し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事の際に慰問に来て頂いたり、地域の行事に出掛けたり、地域周辺の奉仕活動等を行っているが、日常的な交流は少ない。	住吉地区の文化祭やお祭りに参加したり、地域から来訪があったり、交流を図っている。今以上に地域にとけ込めるよう、全員で心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成員になっておられる民生委員の方や入居者のご家族に対し認知症についての話をする事はあるが、地域の方へ向けて活かす事は出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、日頃の様子や活動状況、行事、地域との交流等を報告している。議題に対して構成員からの意見を頂き、日々のケアに生かす取り組みを行っている。	運営推進会議では、地域や家族の代表にホームの取組や計画などの報告を行い、それに対しての意見をもらっている。今後、今以上に地域とのつながりができるよう職員で話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内において発生した課題や取り組みについて、不明な点においては、市町村の担当者へ連絡を取り、解決に向けて取り組めるようにしている。	市町村の担当者とは相談したり、説明をしてもらったり、何でも聞くことのできる関係を構築している。ホームでのこれからの取組などの相談もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を開催し、学ぶ機会を設定している。新人の職員もあり、全ての職員がきちんと理解出来ているかは難しいが、経験年数の長い職員が場面毎に指導を行っている。	月1回の定例会で、全員で話し合いの場を作り、拘束をしないケアについて研修を受けた職員から話を聞き、復命書の記録もしっかり行っている。言葉遣いや行動についても気を付けるよう全員で心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通して、高齢者虐待防止について学ぶ機会が設定されている。在宅や事業所内での虐待は発生していない。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中にこれらの制度を活用されている方はおられず、学ぶ機会も少ない。今後は研修等の参加をし、学ぶ機会を設定していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の希望があった際には見学に来て頂き、建物や生活空間の様子を見て頂き、その際に利用者やご家族の不安、疑問点について尋ねるようにしている。また、契約時においても料金やその他の疑問点について十分な説明を行い、納得して頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が意見や要望を伝え易いように、日頃から信頼関係の構築に努めている。頂いた意見を活かせるように話し合いの場を設定し、今後のサービス向上に繋がるように取り組みを行っている。	来訪が多いので、その都度、家族や本人から意見を聞き、早めの対応を心掛けている。部屋の飾りの場所について相談があると、その場で好みの場所に替えたり、小さなことにも耳を傾けて支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議を行っている。その中で出た意見や提案を活かせるようにしている。また、必要に応じて会議等を開催しており、職員からの提案を聞く機会を設定している。	月1回の部署会議では、職員が困っていることや伝えたいことが何でも話せる雰囲気作りがなされている。利用者、家族への接し方なども話し合っている。職員の意見も出しやすく、日常に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の朝礼やそれ以外の時間帯においても、発生している問題や日頃の様子について報告し、改善に向けての相談を行える環境がある。職員の努力や実績についても報告出来る環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修へ参加出来るように配慮している。外部の研修会においても、本人の希望や研修内容に応じて職員が参加出来るように配慮している。経験年数等に応じて参加を促している研修会への参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敷地内の他事業所・同法人の別の施設との交流会や勉強会の実施を行っている。外部の研修会への参加も促し、交流する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居時に本人が困っている事や不安に思っている事を聞く機会を設定し、安心して入居出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった段階で、ご家族との面会や施設見学をして頂き、その際にご家族が困っている事や不安な事を聞き取れるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当ケアマネとの面談を通して、本人が必要としている支援を見極める事が出来るように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日頃から入居者と過ごす時間を大切にしている。生活の中で一緒に過ごす事で、本人の喜怒哀楽を共にする事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、本人とゆっくり過ごせる空間を確保している。行事への参加を依頼したり、面会時には近況の報告を行い、ご家族と本人が疎遠の関係にならないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理髪店に通って頂いたり、外出支援の際に里帰りドライブへ出掛けたりしている。知人の方へ面会に来て頂く等の配慮を行い、馴染みの関係が途切れないように支援している。	行動や様子から利用者の思いを推し量り、家族に相談・協力を得て家の近くまで行ったり、知人と共に外食に行くなど、継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が構築されている入居者の方同士が、一緒に過ごされる空間を確保している。また、孤立している入居者がいないように職員が配慮し、環境を整えたり、声掛け等を行い、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、困っている事や相談がある際にはいつでも連絡をして頂けるように話をしている。退居後も、次の施設や自宅へ訪問を行っている。今後のフォローが出来るように、ご家族との連絡が取れるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において、本人の希望や意向を聞き取っている。意思表示が難しい方に関しては、日頃の表情や行動、ご家族からの情報をもとに意向の把握に努めている。	日頃の生活の中で利用者のリズムを知り、表情や動作から思いなどを感じ取ることもある。例えば、家族に相談し、外食に同行してもらうことで笑顔で帰ってきたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当の介護支援専門員、施設の介護職やご家族、本人からの情報をもとに、生活歴や馴染みの暮らし等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や各チェック表等を活用して現状の把握に努め、職員間で情報を共有する為に送りノート等の活用も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見を取り入れた介護計画となっている。職員間での情報や意見等を基に、介護計画書の作成を行い、定期的な評価も行っている。心身の状態に変化が生じた際には、見直しも行っている。	利用者、家族、担当職員、場合によっては医師も加わり、介護計画を立てている。看護師も加わり、見直しを行うこともある。モニタリングから3か月後の見直しまで、しっかり記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を活用し、日々の記録を行っている。状態変化や気づきがあった際には、記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を踏まえて、その時のニーズに応じて敷地内の他事業所への相談や以前の担当介護支援専門員への相談等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際の慰問や近隣地域の理髪店からの訪問等を依頼している。園児との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続している。本人やご家族の希望で医療機関の変更等の相談があった際には、応じる事が出来るように配慮している。定期的な受診や突発的な病状変化の際にも、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は、入居前からのかかりつけ医に受診しており、緊急時以外は、家族に同行してもらっている。受診結果は、医師及び家族から申し送りを受け、日誌にも詳しく記録し職員も共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、病状の変化や日頃の生活において、細かな気づきについても看護職への報告を行い、対応している。緊急を要する場合にも、敷地内の看護師への相談が出来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々のかかりつけ医との連携が取れるように、日頃から本人の情報を提供し、状況に応じて相談出来る環境を整えている。入院された際には定期的に病院を訪問し、経過を確認しており、スムーズに退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期以外でも、本人の状態に応じて、ご家族へ状況を説明している。かかりつけ医の主治医への定期報告や状態変化があった際にも相談する事が出来ており、状況に応じた対応が出来ている。	入居時に、本人や家族、かかわる職員が同席し、説明をしている。本人の体調に応じて、かかりつけ医を交えて話し合うなどの対応もなされているが、同意書等の作成までには至っていない。	入居時の説明、その都度相談に応じることが行っているため、今後、意思確認の書類を作成し、同意を得ていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内でのマニュアルや急変に備えて定期的な勉強会を開催しており、実践力が見につくように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害避難訓練を実施している。また、敷地内の各事業所と1ヶ月毎の定期的な会議の開催を行い、情報を共有する事が出来ている。訓練以外でも避難誘導の方法や設置機器の取り扱いについて勉強会を開催している。	法人と合同で全体の避難訓練を定期的に行っている。情報を共有するために、月1回の勉強会を行っているが、ホームの独自の訓練を行うまでには至っていない。	夜間の訓練や地域を交えた避難訓練、非常食等の管理を含め、ホームで主体的に行えるよう、今後期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重してプライバシーを損ねないように職員間で話し合う時間を持っているが、業務が立て込んでいる時間帯においての言葉かけや対応が出来ていない事もある。	利用者に接するあらゆる場面の中で、プライバシーを損ねない言葉かけや見守りができるように、職員間で話し合いを行っている。その都度、気づきがあると職員同士で意見を出し合い、対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や余暇時間等を活用して、本人の希望や好みを聞き出し、一人ひとりが希望の生活を実現出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを理解し、望んでいるペースで生活を送るように心掛けていますが、職員側の都合やスケジュールに合わせて動いている場面が見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には衣類を選択して頂き、着てもらうように支援している。買物等の外出時や行事等へ参加をする際には、化粧をしたり、外出用の衣類に更衣したりと身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前の情報や日常生活において、好みの食べ物等を聞き出すように工夫している。毎日の食事作りは入居者の意見を聞き、献立を作るように取り組んでいる。	朝・昼食は外部からの食事であるが、夕食はホーム内で作っている。職員は、利用者の希望をとりいれ、共に台所に立って会話をしながら調理したり、季節感あふれる食材等を使った内容の食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自宅での食事量や嗜好を確認している。使い慣れた食器類を持ち込み使用して貰っている。食事量や体調の変化が生じた場合には、敷地内の栄養士へ相談を行う協力体制が整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。職員はその際に口腔内の観察を行い、異常がないか確認を行っている。一人ひとりに合わせた口腔ケアの物品も使用出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用や職員間での情報収集をもとに、自立に向けた支援を行っている。実際に、入居者の方の排泄パターンを把握する事で、オムツの使用が減った事例やトイレでの排泄が出来るようになった事例もある。	利用者一人ひとりのチェック表を作成し、その人の動作や言葉の特徴で感じ取り、誘導をしている。見守ることで、オムツ使用の方が、トイレやポータブル使用に変わった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や音楽に合わせた体操、天気の良い日は散歩等を行っている。水分補給や運動を取り入れ、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯をある程度、設定しているが、利用者の方が希望されれば入浴出来るような配慮を行っている。	入浴日は、週4回、定期入浴日となっているが、個人の好みに応じて午前か午後に変更できるようにしている。場合によっては定期の日以外にも入浴し、気持ち良く過ごせるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、日中に休息の時間を設定したり、夜間に安眠出来るように、日中の過ごし方について工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬をある程度は把握しているが、副作用等については全職員が把握する事は出来ない。飲み忘れや誤薬を防止する為、個々の服薬ポケット等を活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に情報収集を行い、本人の生活歴を活かして、作業や役割分担をして貰っている。本人の楽しみごとを取り入れ、気分転換の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方の希望により、戸外へ出たり、故郷ドライブ・買物等が出来るように支援している。ご家族や本人の希望により、墓参りに出掛けたりする支援も行っている。	希望者には、自宅付近まで「ふるさとドライブ」と称して、家族に相談しながら、外食や買い物に応じてもらう支援をしている。夕食の買い物には毎日2名ずつ誘い、外出する機会をつくっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を持っておきたいとの本人の希望があり、ご家族へ相談し持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーの目につく所に電話を置いており、利用者の方が希望されれば電話を掛ける事も可能である。手紙を書いて出したり、相手から送られてきたりとやりとりも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く使用しており、天井も吹き抜けの作りであり、開放感があり、木の温もりを感じながら生活を送る事が出来る。混乱を招くような刺激が無いよう配慮し、季節感を感じる事が出来るような工夫も行っている。	天井が高く、窓が多く、ホーム内が明るい木造作りで、過ごしやすく穏やかな生活環境の場となっている。季節に応じた花や季節ごとの行事が壁面に制作されている。遠足などの写真も飾っており、利用者の方が自分の写真を見つけて喜ばれる姿も見られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において、一人で過ごせる環境がある。また、気の合った利用者同士と一緒に過ごせる空間やソファの設置・和室もあり、思い思いに過ごす事が出来るような居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人・ご家族と相談をしながら、自宅で使用していた馴染みの物や大切な品、写真等を持ってきてもらうように話をし、居心地良く過ごせる工夫を行っている。	利用者の使っていた小物入れや好みの品を家族に相談して配置している。それぞれ仏壇やテレビを置いたり、家族の写真やカレンダーも掲示している。カレンダーには書き込みがあり、本人が分かりやすく使えるように工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置やベッドの高さなど、本人の身体状況に応じた対応を行っている。トイレの場所やそれ以外の場所についても認識間違いを起こさないように配慮している。		